



Newspaper in Education

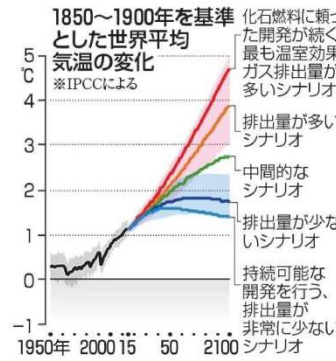
静岡新聞で学ぼう



静岡新聞

記事を読んで、問いに答えなさい。

2021年8月10日朝刊



1850～1900年を基準とした世界平均気温の変化 ※IPCCによる

化石燃料に頼った開発が続く最も温室効果ガス排出量が多いシナリオ

排出量が多いシナリオ

中間的なシナリオ

排出量が少ないシナリオ

持続可能な開発を行う、排出量が非常に少ないシナリオ

1950年 2000年 15年 50年 2100年

人間の影響

IPCCは気候変動「パリ協定」の実現に関する最新の科学的知見を評価する組織。行を迫る内容で、10月温暖化の国際枠組み 末から開かれる国連気候変動枠組み条約第26回締約国会議(COP26)の交渉にも影響を与えそうだ。

同組織は18年、30年、52年に1.5度に達する可能性が高いとの特別報告書を公表。今回、最新データを使って分析した結果、1.5度に到達するタイミングが10年ほど早まった。研究者は、温暖化のペースが従来考えられていたよりも加速したわけではないとする。環境

化石燃料を使い地球温暖化の原因となる温室効果ガスを多く排出した場合、産業革命前と比べた世界の平均気温の上昇幅が2021～40年の間に1.5度を超える可能性が非常に高いとする報告書を、国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が9日公表した。従来分析よりも10年ほど早まった形。最新データに基づき予測精度を改善した。「人間の影響が大气や海洋、陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」と断言、温暖化の進行で極端な高温や大雨が増えるとした。

IPCC報告 予測10年早まる

21～40年気温1.5度上昇

①記事の報告書によれば、2021年～40年の間に産業革命前と比べた世界の平均気温上昇幅が1.5度を超える可能性が非常に高い原因を何としているか。

()

②地球温暖化に関して「人間の影響」はどう表現したらよいか。記事中の見出しの口にあてはまる言葉を7字以内で書きなさい(句読点は付けない)。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

③この報告書の今世紀末に世界平均気温が最も上昇するシナリオでは、気温が何度～何度上昇すると予想しているか。

(~)

④この報告書では、温暖化が0.5度進行するとどのような変化が起こると指摘しているか。

()

する可能性が高い。ただ排出が非常に少ないシナリオでは、21～40年に1.2～1.7度上がるが、50年を過ぎると頭打ちの状況になり下降に転じる。

今回は第6次評価報告書の第1弾。第1作は「気候を安定させるには、二酸化炭素(CO₂)の排出量を削減し、削減可能な増大をもり下げる必要がある」と指摘した。

「これは第6次評価報告書の第1弾。第1作は、温暖化が0.5度進行すると、熱波や大雨、農業や生態系への影響が深刻化する」と指摘した。

年 組 名前

作問者: 静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(中学校～高校/社会、理科、総合)



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう

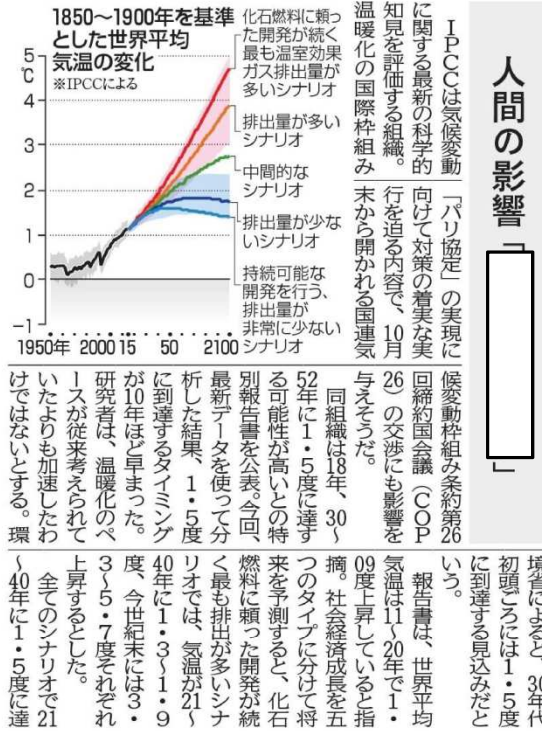


静岡新聞

記事を読んで、問いに答えなさい。

解答例

2021年8月10日朝刊



化石燃料を使い地球温暖化の原因となる温室効果ガスを多く排出した場合、産業革命前と比べた世界の平均気温の上昇幅が2021～40年の間に1.5度を超える可能性が非常に高いとする報告書を、国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が9日公表した。従来分析よりも10年ほど早まった形。最新データに基づき予測精度を改善した。「人間の影響が大气や海洋、陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」と断言、温暖化の進行で極端な高温や大雨が増えるとした。

21～40年気温1.5度上昇

IPCC報告予測10年早まる

①記事の報告書によれば、2021年～40年の間に産業革命前と比べた世界の平均気温上昇幅が1.5度を超える可能性が非常に高い原因を何としているか。

((例)化石燃料を使い地球温暖化の原因となる温室効果ガスを多く排出すること。)

②地球温暖化に関して「人間の影響」はどのよう表現したらよいか。記事中の見出しの口にあてはまる言葉を7字以内で書きなさい(句読点は付けない)。

(例)疑う余地なし(6字)／疑う余地がない(7字)など

③この報告書の今世紀末に世界平均気温が最も上昇するシナリオでは、気温が何度～何度上昇すると予想しているか。

(3.3度 ～ 5.7度)

④この報告書では、温暖化が0.5度進行するとどのような変化が起こると指摘しているか。

((例)熱波や大雨、農業や生態系の干ばつの認識可能な増大)

する可能性が高い。ただ排出が非常に少ないシナリオでは、21～40年に1.2～1.7度上がるが、50年を過ぎると頭打ちの状況になり下降に転じる。

今回は第6次評価報告書の第1弾。第1作「気候を安定させるには、二酸化炭素(CO2)の排出量を削減し、削減可能な増大をもとにすることが必要」と指摘した。

「だ」と話した。また報告書は、温暖化が0.5度進行すると、熱波や大雨、農業や生態系の干ばつに「はつきり」と認識可能な増大をもたらし、と指摘した。

年 組 名前

作問者：静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(中学校～高校／社会、理科、総合)